

宇部市文化芸術振興条例（仮称）検討委員会

第 1 回会議概要

日 時：平成 22 年(2010 年)4 月 27 日（火）15：00～16:30

場 所：宇部市役所本庁 4 階 第 3・4 委員会室

出席者：委員 10 人（欠席なし）

事務局：久保田市長、和田総合政策部長、阿部総合政策部理事、
林総合政策部次長、廣中文化振興課長、
立石文化振興課長補佐、田中文化振興係長、
久保主任

その他：報道機関 1 人、傍聴者 0 人

1 宇部市文化芸術振興条例（仮称）検討委員会の役割について

事務局から説明。

2 委員長及び副委員長の選出

委員の互選により、委員長を長畑委員、副委員長を三好委員とすることに決した。

3 議事

（1）協議に係るスケジュール及び方針について

（委員長） 委員全員で全体のスケジュールや今後の方向についての確認を行いたいので、事務局から説明を求めたい。

（事務局） 基本的に資料 4 のスケジュールに沿って進めていきたい。現在今月上旬から中旬にかけて行った、20 歳以上の市民から無作為に 3,000 名を抽出し対象とした、「宇部市の文化芸術に関する市民アンケート」（資料 9）の集計・分析作業を行っており、次回会議において参考資料として配付するための準備を進めている。

最終的に、条例案を 9 月議会に提出することを予定しており、ややタイトなスケジュールとなるが、御容赦いただきたい。

（委員） アンケートの内容は誰が考えたのか。

（事務局） 作成は主管課である、文化振興課職員によるものである。

(委員長) 通常こういったものは、1年程度の期間をかけて行うものであるが、本検討委員会においてはタイトなスケジュールとなっている。委員各位の御協力をお願いしたい。

(2) 意見交換

(委員長) 本日は初回ということで、各々の立場・経験から、フリートークのような形式で意見交換したい。自由な御発言をお願いしたい。

(委員) 就学児を巡る文化環境について、各学校を巡回する移動教室の実施や、種々の行事開催案内の送付により、子どもが文化に触れる機会は多くなっている。しかし、有料の催事は経済的な問題から鑑賞を断念するケースや、学校行事として文化芸術鑑賞を設定することで授業数を削減できないジレンマが存在する。こういったことを、これからの協議で解決できればよいと考えている。

(委員) 音楽演奏会の招聘に携わる中で、宇部は音楽行事が少ないとの話が耳にはいる。だが、県内他市と比較しても、決して少ない訳ではなく、市民が自分の好みでないものを、行事としてみなしていないようである。そういった意味から、行事の周知は大事と思う。

文化芸術は範囲が広い上に、関わる人間の立場も、創造・提供・鑑賞・保存といったように様々である。市長から、条例を検討するにあたり、特殊性を持たせて欲しいといった要望があったが、どう持たせたらよいのかまだ見えてこない。既に制定されている他市の条例を見るにあたり、どこも文化芸術分野をまんべんなく触れる形であり、本市もこれにならうようであれば、絵に描いた餅のようになってしまう。上手く特殊性が出せればよいがと考えている。

(委員) 宇部市は彫刻に重点を置いた施策を行ってきたが、他方で市内には彫刻に対する否定的な意見も多く、こういった検討委員会においては、彫刻を巡り常に賛否両論が付きまとう。そのため、彫

刻を重点とした場合の反発を気にし、芸術全体を振興しようという形でまとめ、主眼をボヤかしてきた事実がある。しかし、UBEビエンナーレは、世界3大ビエンナーレの一つとして、世界から認められているということ、認識して欲しい。

(委員) 国や自治体の旗振りで文化イベントを行うも、盛り上がりは一過性のことが多い。一方、現在の子どもたちは、テレビなどマスメディアから、発達が危ぶまれるような、溢れる程の情報を浴びせられ続け、自国の文化が何か分からないのではというような環境に置かれている。文化の継承が叫ばれているが、子どもを取り巻く文化環境をバランスよくすることが大事ではなかろうか。宇部市として、どう文化を受け継ぎ創造していくかということを出していければ。

文化は基本的に人が繋がっていくことであると考えている。様々な年代や障害を持つ人々の文化をどう振興していくか、繋がりを大事にし、考えたい。施設に人を集めるのではなく、生活の場で市民が文化に参加できる環境を作りたい。

(委員) ケーブルテレビでの情報発信番組を制作した経験の中で、市民からの参加を得にくいということがあった。恥ずかしいということがもちろんあるが、本市において、このような機会に接することが少ないからか、という印象を持った。

宇部には様々な素材があるが、これを結びつける方策が出来ていない。これを条例制定でクリアしていきたい。

(委員) 文化芸術が盛んな所は、人が育つという。人が出入りしやすい施設の整備・運用が必要ではないだろうか。

芝居を開催する上で、観劇という受身にとどまらず、参画につながるものとしたい。宇部市は県内他市に比べ、市内全児童が学校行事として年1回は観劇の機会を与えられている点で優れている。一歩進めて参画に導きたい。

(委員) 文化は広範で、全ての分野をカバーしようとするれば、条例その

ものがボンヤリすることとなろう。どこかに焦点を当てたほうが良いのでは。子どもへの配慮は絶対に必要で、学校行事として子どもに提供していくことは大事と思うが、高齢化社会を迎え、お年寄りを意識することも必要であろう。

(委員) 宇部市としての独自性ということであるが、宇部市の中でも地域によって歴史も異なり、文化の土壌も違う。その中で、どのようにしてこれを推すべきとものを見つけていくか、わからないところがある。歴史を材料にできるだろうか。

長く歴史を経たもの、規模が違うものにどう立ち向かうかが課題であると思う。

(委員) 文化庁からの要請により、伝統文化振興に協力してきたが、毎年助成金を減額されてきた。理由は、伝統文化が振興され、活動が活発となり、助成金を申請するものが増加したため、1団体あたりの金額が減ったのだという。施策により振興されたのであれば、予算を増額し、これに応えることが必要ではないだろうか。結果的に年々活動が先細りしていくのが現状である。伝統文化が衰退する原因を突き止め、対策を講じたい。

文化振興のためには、子どものときから文化に接することが大事というが、親の都合で機会が逸せられることが多い。幼い頃、学校行事で渡辺翁記念会館において文化に触れさせてもらい、良い経験になった。義務教育の時間に機会を設けることが良いのではないだろうか。

(委員) ミュージアムが人を変えらるべき、金沢 21 世紀美術館等の先進事例を参考にしようか。

文化芸術に注力している自治体の特徴として、自分の地域が衰退しているとの危機感を持っているという点が挙げられる。この危機をどう克服していくかのビジョンと戦略を持てるかどうかということが、地域再生のための核心となってくる。今後、地域における文化格差が問題となってくるだろう。

欧米のように文化をストックとして活用する施策が必要であり、

地域が生き残るために、地域に根ざした市民文化を育てる街づくりを目指すべきで、地域の文化力と文化による雇用の創造を作っていく取組みが重要。どのような地域にも必ず文化というものは存在するので、その文化を発掘、再生、再創造し、街づくりに繋げていきたい。

ゆくゆくはこの会議が、行政とは独立した文化審議機関として新しく宇部市民の文化を創造していく機関となり、これまでバラバラに行われてきた文化活動が宇部市の文化として集約されていければよいがとの夢を持っている。

(3) その他

次回、第2回会議を5月24日(月)午後を開催することとした。

以上